

きずな

No.25

令和6年10月発行

フロムいけの(宗像市).....1, 2
美和台校区自治協議会(福岡市).....3, 4
県庁お知らせ掲示板.....4



編集・発行 福岡県 企画・地域振興部 政策支援課
TEL:092(643)3178 FAX:092(643)3164

フロムいけの(宗像市)

人をつなぎ笑顔をつむぐフロムいけの ～フロムいけの(宗像市)～

宗像市池野地区は、地区人口約3,700人で、昔ながらの農村と約25年前に開発された住宅団地が隣接している地区です。地区内は、旧住民と新住民との交流があまり図られていなかったことが課題でした。

今回は、このような課題に対して、地域の魅力を活かしながら楽しく地域活動を行っているフロムいけの取材しました。

池野地区からはじめよう

フロムいけのは、池野地区コミュニティ運営協議会まちづくり計画のひとつとして、平成28年に池野地区の有志によって誕生した団体です。

「池野地区から(From)色々はじめていこう！」という思いを込めて、団体名を「フロムいけの」と命名し、宗像市独自のコミュニティ活動の一環として、池野地区のPR活動(ジャムの製造、販売)や地域資源を生かした交流活動等に取り組んでいます。

農村の住民に教わりながら宗像地区の郷土料理である鶏すきを作り、地域イベントでふるまったところ、好評であったため、鶏すき作りが毎年恒例行事となり、新旧住民の交流のきっかけとなりました。



▲赤間宿まつりで鶏すきを出店



◀鶏すき
メにそうめんを入れる。鶏すきを通じて、古里を知り、次世代につなげる取組となっている。

小さなビジネスにも挑戦

農業がさかんな池野地区には、イチゴ、イチジク、ミカンなどの特産品があり、この特産品を生かして、ジャム作りを始めました。ジャム作りは、農家から規格外の果物を安く買い、自分たちで収穫から行うことで、コストを抑えています。ジャム作りの経験はありませんでしたが、メンバーで試行錯誤を重ね、フロムいけの特製レシピが完成しました。ジャム販売で得た収益は、鶏すき交流会やランチ会等、地域交流イベントに使われています。



▲ジャム3種



▲みかんジャムづくりの様子
果物の収穫から製造までメンバーで行う。



▲ランチ会の様子
パエリアは、フロムいけのメンバーで担当を振り分け、参加者に喜んでもらえるよう試作を重ねた。若い参加者も多く、多世代交流のひとつとなった。

コロナの壁

鶏すき交流会は、平成28年の開始から毎年の恒例行事となり、地域に定着しつつあったところに、新型コロナウイルス感染症が流行しました。

フロムいけののモットーである「ヒトとヒトの交流」が全て制限されてしまい、活動は、ジャム作りだけになってしまいました。リアルな話ですが、地域活動は生きていくために必須ではないので、コロナをきっかけに、地域の活動に対する気運も段々と下火になってしまったのが事実です。

代表の樋口さんは「鶏すきイベントをまたやりたい気持ちもあるが、感染症が気になるという声もまだまだあるので、やっていいものか難しい」と語ります。

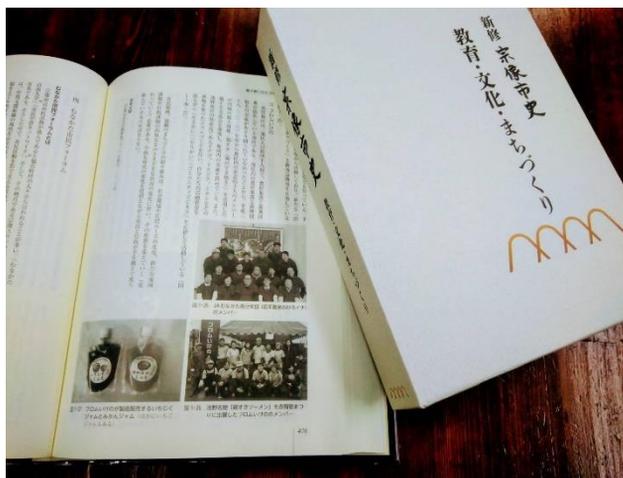
アフターコロナへ向けて

地域イベント再開に向けて、今年、宗像市の協力を得て、おなかつ大学のまち協議会での企画に参加することにしました。

おなかつ大学のまち協議会は、市内にある2大学、2高校で組織され、学生が地域や市役所など色々な方と関わることで、学びへとつながり、地域に還元できるようなプログラムを実施しています。

今年は、フロムいけのと一緒に地域でできる交流イベントを学生たちが企画し、実施する予定です。学生ならではの自由な発想を大切に、地域が盛り上がる交流イベントができればいいと考えています。

フロムいけのの新たな試みが地域のきずなとなるように着実な一歩を踏み出しています。



▲宗像市史(教育・文化・まちづくり編)
フロムいけのの取組が宗像市史に掲載。

次世代につなぐ みんなの心に残るふる里へ

～美和台校区自治協議会(福岡市)～

福岡市東区の美和台校区は、東区の北側に位置し、小高い丘を切りひらいて造成された土地のため、坂道が多いのが特色です。住民の高齢化が進む一方、マンション開発で新しく転居してきた子育て世代も増えており、住民同士の絆を深める地域活動が活発に行われています。

地域のために様々な取組を実施している美和台校区自治協議会を取材しました。



▲自治協議会役員メンバー

住民の居場所づくりをめざして

自治協議会では、住民同士が気軽に集まって交流できる場として、地域カフェ「えむぷらざ」を月1回美和台公民館で開催しています。

地域カフェといえば、コーヒーや茶菓子の提供等簡易的なものが多いですが、美和台校区では、子ども連れからお年寄りまで幅広い年代の住民の方に来てもらえるよう工夫しています。

「えむぷらざ」開催日は、公民館を貸し切り、食事の提供、農産物や手芸品の販売、鉄道模型(Nゲージ)コーナー、健康麻雀など様々な催しが行われ、多くの住民で賑わっています。

また、熊本地震の際には、被災した西原村の復興支援のため、西原村の野菜を「えむぷらざ」で販売する取組も行いました。



▲地域カフェ「えむぷらざ」の様子

地域のニーズに合わせた取組

美和台校区は、福岡市の中でも高齢化率が高いことも特徴です。高齢化が進み、住民から買い物や移動手段についての相談も増えたことから、自治協議会が中心となって、移動販売や配食サービスを行っています。

移動販売の開始直後は、安心して利用してもらうため、自治協議会役員や民生委員等が立ち合い、見守りや声掛けを行いました。地域の顔なじみの方が立ち会い、声かけを行うことで、安心して利用でき、交流の場にもなっています。

また、福岡市が2022年11月から社会実験運行しているオンデマンド交通「チョイソコ」の対象エリアの一つとして美和台校区も参加しています。自宅近くから乗車でき便利という声が多いことから、停留所を増やし、利便性を向上させるなど、本格導入が実現するよう利用促進に取り組んでいます。



▲移動販売の様子

毎週金曜日に校区内10か所を回っており、新鮮な野菜や果物等、豊富な品揃えが好評となっている。



▲オンデマンド交通「チョイソコ」

1日の利用者は、約30人で駅や買い物先への外出時に利用されている。

助け合いの地域へ

2022年には、新たに「みわだいボランティアの会」を立ち上げました。

ボランティアができる人とボランティアを利用したい人をつなぎ、住民のちょっとした困りごとを解決しています。申込が多いのは、庭の草刈りや木の剪定です。安い価格で手軽に利用できることから、住民にも好評です。

次世代へつなぐために

8月まつり美和台、10月校区市民体育祭、12月福祉餅つき大会・しめ縄づくり、1月どんど焼き、3月さくらまつり等、1年中イベントが目白押しですが、コロナ禍では、全てのイベントが中止となり、地域活動の危機がありました。コロナ禍は、人が集まるイベントはできませんでしたが、密にならない取組として、福岡市の一人一花運動で福工大前駅ロータリーの花壇づくりやみわだいファーム・トマトの会を立ち上げ、農業活動に取り組みました。

コロナ明けのまつり美和台は、賑わいを取り戻し、大盛り上がりでした。まつり美和台は、GW明けから会議が始まり、備品の手配から当日まで大変ですが、この時期に合わせて帰省する方も多く、地域住民の心に残る行事の一つとなっています。



▲40年以上続くまつり美和台の様子

ご紹介した取組のほか、防災フェスタの開催やダンボールコンポストによる見守り活動等、数多くのイベントや活動に取り組んでいます。また、今年度から福岡市が実施している地域活動の担い手不足の解消を目的とした「ふくおかポイント」にも参加しています。

自治協議会会長の山下さんは、「自分たちは、次世代につなぐための土台づくりをしている。様々なイベントや活動をとおして、少しでも自治会活動に興味を持ってくれる人がいたらいい」と語ってくれました。

県庁お知らせ掲示板

こどもエコクラブにご登録ください！

こどもエコクラブは、幼児(3歳)から高校生まで誰でも参加できる環境活動のクラブです。自分たちの興味関心のある環境保全活動や環境学習を通して、子どもたちが人と環境の関わりについて幅広い理解を深め、地域の環境保全活動の環を広げることが目的としています。登録料、年会費は無料です。

登録すると、活動中の事故に伴う賠償をサポートする「賠償責任保険」の対象となるほか、協賛企業から活動に役立つグッズの進呈などもあります！



環境政策課 092-643-3355

安心安全なまちづくり。ながら防犯にご協力を。

「ながら防犯」とは、通勤・通学、買い物、ウォーキングなどの日常生活の中に防犯の視点を取り入れて、周囲への目配り、子供たちの見守りなどを行う活動です。

企業で！団体で！個人で！

「ながら防犯」は誰もが気軽に実践できる防犯活動です。

県では「ながら防犯」に取り組む方のうち、「みんなで防犯応援隊」として登録していただける企業・団体を募集しています。

「みんなで防犯応援隊」に登録しませんか？



生活安全課 092-643-3124